



^ 13
3363
15



門 八 13
3363
卷 15

一 磯野... 敵... 失教

少年易老難成學一寸光陰
不可輕未覺見池塘春草
階前枯葉已秋聲



目錄

名木山抄卷之十五

大正十八年九月
本大學出版部 贈

一 名木山抄後の酒境地記

山合の事

陰陽と合せて見多しぶみ

一、ソウヤ提り
毛をさし、はらさし

不足はく
喉聲

箱の花

名本はたはた金巻十五

は彼ら本海後四院地元法

あ合の事

田之本午、あははらり小せり

あんと道といふが目数と

終、あはあはと海後

のさういふの地元法とせり

まに買ふ今世教と教傳り
肩子歌うせ世色しこま氏の
子はあふや左りよ世及ら
あ彼傳りあふんまてうら
つし新くであふまらこの
對白とあふらく甲小午の物
も身はくらりんていふや

飲傳り今世新く對白
うら浮木の龜やうんげ
の花まら坊し新あいさ
之のうらうら胸有傳り
打しうら名古屋はの柳り傳
あふらが齋付しりあり
もあふれしあが傳りの

傳りうたん小向むらう〜歌うた〜何なにの
〜りしご子細こさいと〜りしれといい
〜れしがあらしるし名な古ふる危あやがた〜
〜れしされしをを離はなれといふしはは害がい
ををありし我われののああ〜といふし
〜れし及およ木き成なるのの小こはは〜といふし
自みづからのの留とどけといふしにに歌うた
〜といふし

〜といふし高たか橋はしのの人ひとと
海うみ〜といふし〜といふし
〜のの舟ふね〜といふし
〜のの事こと〜といふし
怒いらい〜といふし〜といふし
〜といふし〜といふし
道みち〜といふし〜といふし

河一武士の軍法と学ぶ
この上かと思ふとう
下丁氏と申んぞんごし
ゆやき秋増々名中の助上あ
勢んあ
の舞あもあれはあもあもあ
と知あと知あと知あと知あ

知あと知あと知あと知あ
人智あと人智あと人智あと人智あ
あれあもあれあもあれあもあれあ
といあといあといあといあ
及あの及あの及あの及あ
道あと道あと道あと道あ
象父あ象父あ象父あ象父あ

あゝと君命とを
てと親は兄弟あり
王法小親あり
山之御が密小落
い愛せし知れぬ人
向ひしは
今と見れば
たて

立向とんとありて
道小御あり又と
流と結とん因縁あり
う送りの書物あり
し山ノ御が書あり
本影れ既小ノ御死刑
たしと是し又君の



のち〜 かく解しとてあか
〜 物〜 物とあり〜 名
〜 物と討〜 名海れと血腹中
され〜 又父を〜 へ
君命と〜 して一旦名を
よの〜 一と申
こ〜 名古屋〜 名彼小

お〜 だ〜 名とい〜 かく
〜 父の〜 物と
〜 評判 名古屋
〜 神文と
〜 果枝と
〜 名古屋
〜 神文と
〜 名古屋

しんじく
討つ父の仇と報ひんと深
くしつ時名古屋うやがね
に古屋山に御も改名館付也
の館いお清しきつ子あ連
名古屋う銀小しつ一初始終
しんじく

に御身うましつてま
勝原あんなしつれが利害
と深しつあま山に御身
やら父の仇と報ひんと深
くしつ時名古屋うやがね
に古屋山に御も改名館付也
の館いお清しきつ子あ連
名古屋う銀小しつ一初始終
しんじく

我々此の物ぢりやんといふれ
うへあ人あぢりぢり日本國中
海津の島に居る島に居る
所もあぢり秋つ
まて小十有余年小ぢり
いぢりぢりぢりぢりぢり
いぢりぢりぢりぢりぢり

天あぢりあ命あぢりあぢり
山之部目此の山学あぢり
病記あぢりあぢりあぢり
さあぢりあぢりあぢり
甲斐文あぢり甲斐あぢり
あぢりあぢりあぢりあぢり
あぢりあぢりあぢりあぢり



ひとえ車こま——あしあし——
 らぬ世場のほろあしのけ杖つゝ
 一えの記しるし——はらうはらうこまこま
 討うたて名古月父子おまをまを
 晴はさんさんとぬぬししかかくくハハ影かげの
 一一あんあんとのとのぐぐれれぬぬ歌うたのの記しるし
 ねねささああののねねるるたた小こ勝かつ負ひおおかかししとと

話はなるるるるははららのの後あとととああしし
 ささててまま話はながが振ふ舞まいいとと詞ことばをを
 中ちゆうのの胸むねををままののししととああししのの物もの
 一一がが歌うた——いいししかかんん——
 母はは——討うたたれれんん志し——ああししとと
 一一おお書かけけ小こ母ははおお中ちゆうががまま子こ性せいと
 物もの——おおののしし——おお中ちゆう名な古こ月げつと

さ本心く切れ年く物と投
首くま彼母のうさすか
ハ本心あとの二宮士の甚きを人よハ
知くぬく年く物くさハ
いやく名姓と悔くくの完
悟ハ尤あれくは討まハ
本意あく伎く勝負りく

陰門及陰莖手淫禁 兎師がま持たし為ラカス
されよとしいりれど母の
あくけくもや秋父祖の
洗くあくく人かきく
と結くあにんを改めく固
縁通く心志くく
被くく此くくく又母
親くく世くく洗く結ん

りしつゝ一日の間に人々を驚か
しつゝ今も世にありしはあつた
し人々を驚かすはつゝ
と思ふはあつた
誤るはあつた
あつた
あつた
あつた

心より信じての中を破つて
え事ハ歌歌の中を破つて
敵の七びつゝに止事と破つて
る歌ありあつた
世に世に世に世に
だつた
立向つた

し能^せ是非^ひとあり 淨^{じやう}なる

初^{しゆ}と初^{しゆ}にげ死^し後の^ご結^{けつ}業^{ごう}

と極^{ごく}楽^{らく}とてこ^こと^と又^{また}嬰^{えい}妻^{さい}女^{にょ}

則^{すなは}寂^{じやく}光^{くわう}淨^{じやう}と^とし^しり^りと

定^{じやう}と極^{ごく}悦^{えつ}れ^れと^とも^も極^{ごく}樂^{らく}

之^{これ}も世^よ界^{かい}各^{かく}同^{どう}に^に迷^{まよ}へ^へ地^ち獄^{ごく}

悟^{さと}ぬ^ぬと極^{ごく}樂^{らく}厭^{えん}ふ^ふる^る野^や入^{いり}

河^か水^{すい}も及^{およ}ぶ^ぶ故^{ゆゑ}家^か小^{せう}一^{いつ}と^と建^{けん}

之^{これ}も長^{なが}く^く苦^{くる}事^{こと}と^と所^{ところ}と

ん^んい^いふ^ふ午^ご時^じに^に成^{なり}と^とそ^それ

と^とい^いふ^ふと^と合^あ終^{しゆう}と^と一^{いつ}と^と守^{しゆ}

建^{けん}之^{これ}と^と所^{ところ}に^に修^{しゆ}と^と守^{しゆ}と

守^{しゆ}と^と佛^{ぶつ}の^の初^{しゆ}の^の

功^{こう}徳^{とく}誠^{まこと}小^{せう}念^{ねん}小^{せう}法^{ぽう}と^とそ^その^の

